学校評価実施報告書　　西　院　　幼稚園

中間評価

学校関係者評価

評価日	令和8年10月21日	評価者	小川　陽子

3　幼稚園教育の計画

目標の実現に向けた具体的な取組の結果を検証する指標の結果を記載するとともに、自園での分析、分析をふまえた取組の改善、取組の改善を検証するための指標について記述してください。

具体的な取組（年度当初）	各種指標の結果
子どもが主体的に遊ぶ姿を重視する保育について ①幼児の”やってみたい（好き）”が生まれる環境構成と教師の援助の在り方を追い求める ・幼児一人一人の興味関心を探り、それぞれが周囲の環境に対し”やってみたい（好き）”と心と体を動かし遊び出せる環境構成や援助を行う。 ・一人一人の”やってみたい（好き）”が他児に広がり、つながり、教師も一緒になって互いに遊びを紡ぎ合っていけるような援助と環境の再構成を行っていく。そのために、週案に、特に”やってみたい（好き）”に焦点を当てた部分にマークをつけ、自分自身の保育の振り返りや意識向上、教員間の学びの共有につなげる。★ ②健康で安全な心と体を育む。 ・幼児一人一人が安心して自己発揮ができる関係づくりと雰囲気づくりに努めるとともに、グラウンドや公園等の場を有効に活用し、開放的にのびのびと体を動かして遊べる場づくり、保育内容を工夫する。★ ・毎月の安全点検に加え、遊びや生活の中で今年度の幼児の実態に即した安全な園環境の見直しと改善、人員配置を随時行っていく。 ・避難訓練時の誘導、配置等、各教職員の役割への意識向上のため、訓練前後の協議を深める。 ・アレルギー対応児への安全面確保のため、預かり保育のおやつを毎日職員室前に掲示するとともに、おやつ時間は教員の２人体制を徹底する。 ③多様な人とのかかわりを深め、互いを思い合える心を育む。 ・年間を通じて、転入園児が多い自園の実態をふまえ、いろいろな友達に自ら親しみをもってかかわり、仲間として受け入れられるような温かいかかわりと雰囲気づくりを教師がモデルとなって率先して行っていく。 ・４・５歳児の異年齢ペア”幼稚園きょうだい”を年度初めに構成し、園外保育や行事、活動等で継続してかかわる機会をもつ中で、それぞれの立場での感情体験（自己有用感、責任感、自信、憧れ、葛藤、折り合い等）を味わえる場を保障し、自己発揮、自己調整力、協同性の芽生えを育んでいく。★ ④読書活動の推進を図る。 保育の中での絵本活用の充実と見直しを図るために、子どもの今の興味関心や季節感に沿った絵本を、専門性のある教職員と連携しながら選び、読み聞かせしていく中で、一人一人の言葉に対する豊かな感性や表現力、想像性を培う。 ⑤自然環境の充実を図る 生き物を身近に感じ、親しみをもてる園環境の再構成を行っていく。（飼育場所の環境改善・子どもの今の興味の実態に合った生き物の充実・今後の禽舎の改修に向けた検討等）	①子どもたちの遊びの姿を丁寧に見とり、事後に教員間で情報交換や教材研究を行いながら、より楽しめる環境構成に向けて努力することができた。 園内研究で、子どもたちの「好き」「やってみたい」の姿や、その姿が「紡ぎ合う」にどのようにつながるのかを探ってきた。子どもたちがその遊びを「やってみたい」「好き」と思っていくプロセスや、自分たちで積極的に遊びを進め、それを教師が追うような状況が目指す姿なのではないかということが見えてきたので、引き続き探っていきたい。 子どもたちがのびのびと生活するために不可欠な「安心して幼稚園に通っていますか」について、「どちらともいえない」という回答もあったので、支えていけるよう努力したい。 評価：安心して幼稚園に通っていますか よくあてはまる（A）あてはまる（B)どちらともいえない（C)あてはまらない（D) (A)83.9%（B)12.9%（C)3.2%(D)0% 評価：自分からやりたい遊びを見つけ、心を動かして遊んでいますか。 (A)83.9%（B)16.1%（C)0%(D)0% 評価：幼稚園は、子どもたちが「やってみたい」と心を動かして遊べる環境づくりに努めていますか (A)96.8%（B)0.2%（C)0%(D)0% 評価：先生や友達と遊ぶことが好きですか (A) 61.3%（B)12.9%（C)0%(D)0% 評価：幼稚園は子どもが安心して通える居心地の良い場所ですか (A)93.5%（B)6.5%（C)0%(D)0% ②子どもたちが楽しんで体を動かすことができるよう、子どもたちが好きな題材や遊んできたごっこ遊びなどから運動遊びを工夫して展開させていくことで、子どもたちが自ら楽しんで体を動かすことができていたと考える。2学期は毎日を「うんどうかい」と称して、体を動かす経験を重ねていき、運動機能を向上させることができた。 毎月の避難訓練の内容や教職員の動きを見直し、シュミレーションをしながらより密な打ち合せや検討、事後の振り返り等を行った。少ない教職員で役割分担することから、分担を固定することで当日の職員体制が変わると対応しきれないという課題も見えてきた。 評価：体を動かして遊こぶことを楽しんでいますか (A)83.9%（B)16.1%（C)0%(D)0% 評価：幼稚園は、健康で安全な心と体をはぐくんでいますか (A)90.3%（B)9.7%（C)0%(D)0% ③多様な人とのかかわりについて １年を通じてペアリングした幼稚園きょうだいでの活動を園外保育だけでなく運動会の演目にも取り入れ、よりつながりが深まるための生活を模索すること

	ができた。 評価：自由記述より…家に兄弟がいないが、自分はお兄ちゃんだから、という気持ちがもてている 色々な友達に親しみをもち、仲間として受け入れられるように教職員がモデルとなっていけるよう、教職員も人権研修を重ね、言葉かけの大切さを学んだり、かかわりについて教員間で事後検討をしたりしている。 評価：先生や友達と遊ぶことを楽しんでいますか（上記参照） 評価：自分のことも、周りの人のことも大切にしていますか (A)46.2% (B)51.6% (C)3.2%(D)0% 評価：幼稚園は互いを思いやれる心をはぐくんでいますか (A)76.9% (B)23.2% (C)0%(D)0% ④読書活動の推進について 子どもたちの興味やその時の楽しい遊び、季節などに関連した絵本を選び、また、保育室の環境にも生かしている。 今期は、栽培活動と関連付け、収穫した作物にまつわる絵本やお話を楽しんだりする経験が多くでき、よりお話を楽しむ支えができたのではないかと考える。 評価：絵本やお話は好きですか (A)74.2% (B)25.8% (C)0%(D)0% 評価：幼稚園は、読書活動の推進に努めていますか (A)83.9% (B)16. 1% (C)0%(D)0% ⑤自然環境の充実を図る 園で出会える生き物、家庭から持ち込まれる生き物に親しみをもてる飼育環境の工夫や、生き物をごっこ遊びに取り入れた活動などを継続して行った。また、教師が生き物を身近に感じられるようモデルとなり一緒に心を動かすことで、子どもたちの生き物への興味や親しみが深まっていると感じる。また、栽培から収穫、表現活動、食べるといったつながりを大切に活動することができた。 保護者の力も借りて、禽舎の改修を行ったが、気候などを鑑みてまだ動物が入れられていない状況である。 評価：栽培活動を楽しんだり、身近な生き物とのかかわりを楽しんだりしていますか (A)61.3% (B)35.5% (C)3.2%(D)0%
支援が必要な子どもへの教育について ・支援が必要な子ども一人一人の特性や支援の在り方を園全体で共有していくため、保育後に該当のクラス担任、加配教員だけでなく、教職員全体で振り返りや支援の在り方を随時話し合い、共有していく。 ・キンダーカウンセラーや専門家の話を聞く機会を計画し、教職員の専門的な知識や向き合う姿勢（傾聴、受容）を習得し学ぶ。	教職員皆で関わりを共通理解できるように、園内で研修を行ったり、日々の支援の必要な子どもたちへの理解について話し合う機会を大切にしてきた。その際にキンダーカウンセラーの先生も同席していただき、助言いただくなど、専門的な知見がもてるようにした。 評価：幼稚園では、一人一人の発達に合った援助がなされていますか (A)80.6% (B)19.4% (C)0%(D)0%
幼保小の架け橋プログラムの推進について 子ども同士の交流後、教員間の理解の共有の為の事後協議を実施。事後協議を活かし、次の交流につなげる。 保育公開・小学校の授業参観・事後協議で、互いに大切にしていることなどを共有し、意見交換する。	小学校との連絡を密にし、園外保育先を合わせて出会いを計画する、小学校の校長先生に運動会に参加していただくなど、新たな交流やつながりのもち方を計画・実践した。１１月には本園の公開保育を行い、小学校の先生方との協議や教育委員会の先生による講話などを計画・実施することで、幼稚園教育へのさらなる理解を図ろうと考えている 評価：幼稚園は小学校との連携ができていますか (A)64.5% (B)32.3% (C)3.2%(D)0%

預かり保育について 少人数、異年齢児とのかかわりの中で自己発揮している姿を保育にも反映していけるよう、伝達、記録の両方を活用し教員間で子どもの育ちを共有していく。 ・安心できる居場所と関係づくりを行い、一人一人をより丁寧に見とれるよう人数確保を行う。	長時間保育を受ける子どもたちの心の安定、夕方以降少人数になっていく時間帯の温かな関わりを意識して保育を実践できるようにしてきた。学級での姿と預かり保育での姿の違いなどについて、預かり保育後等に担当者・担任間で連絡を取ることを心掛けた。 評価：預かり保育に喜んで参加していますか (A)58.1%(B)32.3%(C)6.4%(D)3.2% 評価：幼稚園の預かり保育は利用しやすいですか (A)80.6%(B)12.9%(C)6.5%(D)0%
子育ての支援について ・親子で楽しめるプログラムや保護者も安心して過ごせる場づくりを推進していく。未就援児の保護者に、今後の成長を見据えた子育て支援につながるよう、在園児クラスの保育を語る場を設ける。 ・在園児と未就園児が交わい互いのかかわりがもてる共有の遊び場の環境を工夫する。	これまでに実施していなかったイベントを取り入れたり、イベントの際の周知ポスターを今までより多く掲示して、より多くの参加があるように努めた。シャボン玉ショー、音楽を楽しむプログラムなどに参加が多くあり、内容を工夫することの意義を感じた。 10月末の未就園児ミニミニ運動会に、在園児も一部参加し、在園児の成長の姿を見てもらう機会とする。 在園と未就園児の保護者同士のかかわりの機会が現時点でもてていない。

自己評価

分析（成果と課題）

①子どもたちの姿の丁寧な見取り、学級担任間の継続的で密な情報交換、教材研究が行われていること、また、失敗を恐れず柔軟に様々な取り組みや環境構成を行うことが、子どもたちの「やってみたい」という意欲や遊びを十分に楽しむ「好き」の姿につながり、その姿を保護者も感じてくださっていることがわかった。子どもたちの姿を園内研究で分析していくことで、子どもたちの「やってみたい」や「好き」に向かうプロセスをとらえ、必要な援助や環境構成について探ることを重ねることができてきている。

②子どもたちが安心して生活できるような教師の関わり、園の雰囲気について評価していただいているよう　だ。体を動かす活動について、園内外の環境をできるだけ生かしながら子どもたちの運動量を保障することや、子どもたちが継続して楽しんでいる遊びから運動遊びを展開すること、毎日「うんどうかい」を楽しむ生活をすることなどで、活動量を増やし、運動機能の向上などを支えることができたのではないかと考える。
　安全教育について、避難訓練の計画時に、より実践に即したシュミレーションを行ったり、教職員間で丁寧な打ち合わせを行ったりした。また、様々な訓練がもれなく行えるよう計画をしたりした。ただし、「本当に起きたときに」どう動くのか、という訓練ができるようにという視点ではまだ足りない部分もあり、「HANAモデル」の実践等を検討していきたい。

③1年間固定した「幼稚園きょうだい」（異年齢ペア）での活動を継続させることとともに、４．5歳児合同で毎日運動会をする、一緒に収穫活動をするなど、学年を越えた生活が新たな出会いや憧れの気持ち、慈しみの気持ちなどを育てているのではないかと感じる。今年度も転入児を多く迎え、仲間になっていくプロセスでは様々な葛藤も感じられる。仲間として受け入れる、友達の中で折り合うなどの気持ちを、生活の中で温かく受け止めながら育てていくことの大切さを感じる。
④読書活動の推進については、保育室内の絵本をめぐる環境づくり、学校運営協議会の「絵本ボランティア」さんによる絵本室整備、毎週の絵本貸出などで、絵本を身近に、親しみをもてるよう支えてきた。また、収穫活動と絵本、身近な遊びと絵本、など、子どもたちの実体験とリンクさせた読書活動を意識することができていたのではないかと考える。
⑤街中の幼稚園ではあるが、幅広い栽培活動や身近な生き物を見つけたり育てたりする活動、家庭から持ち込まれた生き物、生き物を身近に感じる環境構成などで、子どもたちが自然と身近な自然に親しんでいくことができた。とりわけ栽培物を収穫した際に、表現活動や食べる活動へとつなげていくことで、一連の流れが生まれ、子どもたちのさらなる興味や充実感につながったのではないかと考える。
・支援が必要な子どもへの教育について、園内での共通理解を図る研修を行う際に、キンダーカウンセラーの先生に同席してもらい、専門的な知見からお話していただくことで、その子どもの困りを理解し、最適な関わりについて考え、日々の生活の中で意識することにつなげられたのではないか。また、その子どもたちが生活の中でわかりやすくなるための教材作成や実践も積極的にすることができていったと考える。
・架け橋プログラムの推進について、隣接する小学校が実践推進校となったため、より喫緊の課題として意識し、これまで培ってきた教職員間のつながりを生かすことを心掛けてきた。校長先生に運動会に出演していただくことで、小学校とのつながりを保護者の方にも感じていただくことができた。今後子ども同士の交流の機会が重なるので、その際にいかにその内容や事後の姿を共有していけるかが今後の課題であると感じている。
・預かり保育について
ほとんどの子どもが喜んで預かり保育に参加している。利用時間・頻度などに個人差があるので、特に長時間利用の子どもたちには、その心の内をとらえながら、教育課程内の活動とは違う少人数の良さ、異年齢の良さ、家族のような雰囲気などを意識し、その姿について引き続き密な連携をしていくことの大切さを感じる。
利用のしやすさについて、ごく一部ではあるが利用のしにくさを挙げる保護者の方がある。急な変更、申込などの際の対応や、長期休暇中の実施などを振り返りながら、より安心して利用してもらえるようにしたい。
・子育て支援について
　より多くの未就園児親子に本園に来てもらい楽しんでもらえるよう、在園児の活動とリンクさせて招いたり、新たなイベントを計画したりし、それをポスター掲示することを意識してきたが、ＳＮＳでの発信はできていないこともあった。また、在園との交流を今後多くしていくことや、在園保護者とのつながりがもてる企画などを意識していくことが大切だと感じる。

分析をふまえた取組の改善（改善の必要な取組について記載）

①これまで同様、子どもたちの「やってみたい」や「好き」をめざして、教員間で密な情報交換や教材研究を行い、環境構成や援助に生かしていく。また、保育で大切にしていることを全教職員で学び、同じ思いで保育に臨んでいくことを目指していく。
②避難訓練に関して、より実際に生きる訓練を引き続き目指し、「抜き打ち」でどのくらい対応できるかやってみることや、「HANAモデル」のシステムを整えて実践するといったことに取り組んでいきたい。
③新しく仲間になる子ども、支援の必要な子ども、様々な個性をもった子どもたち同士が日々生活する中での心の動きを丁寧に捉え、将来に生きる人と関わる力（認め合い、折り合いなど）を育てていけるよう、教職員皆で人権意識を向上させていく。
⑤栽培活動や飼育活動の充実をさらに図れるよう、計画的な栽培活動を行って栽培したものを生かせる保育を実践することを意識する。また、池の整備、整備した飼育小屋の活用などを進めていく。
・支援の必要な子どもへの専門的な知識、適した手立て、周りの子どもたちの心の育ちも意識した関わり方などを教職員皆で学び続ける
・架け橋プログラム推進について、今後実施予定の公開保育、子ども同士の交流などについて、実のある学びができるよう公開保育内容、協議の視点について十分に検討して実施するとともに、交流前後の話し合いを短時間でも継続させ、しっかり学び合えるようにする。
・預かり保育に子どもが安心して参加できる心の支え、保育内容に留意して実施するとともに、保護者も利用しやすい雰囲気づくりに努める。
・子育て支援に関する情報のより丁寧な発信、在園児とのかかわり、保護者の在園児保護者とのかかわりを意識して企画していく。

（最終評価に向けた）改善した取組を検証する各種指標

①前期同様の評価項目＋　　②前期と同様＋安全教育に関する項目　③前期と同様＋友達の個性への理解について　⑤前期と同様＋自然に親しめる園の環境づくりについて
架け橋プログラムについて…前期と同様＋幼稚園と小学校の子ども同士のつながりについて
預かり保育について…前期と同様
子育て支援について…未就園児教育相談の参加者数や、参加の様子・未就園児保護者の意見など

学校(幼稚園)関係者による意見・支援策

・一人ひとりが輝き、ともに育ち合うということを意識した保育をめざして温かな園づくりが行われているのではないか
・地域とのつながり、という点で、未就園児教育相談室の活用について話し合ってきたが、より具体的な取り組みに向かっていけばどうか。理事としてできることがあったらサポートしたい。

4　教職員の働き方改革について

重点目標
教職員の心身の安定を大事にしながら、一人一人の自己有用感を高めることで、意欲と向上心を育み、働きがいを感じられるようにする。

具体的な取組（年度当初）	各種指標の結果
①子どもにとって何を大事にし、そのために何が必要かを出し合ったうえで、行事の持ち方（行事内容、教材内容・準備、役割分担等）の見直しと精選を行う→従来にとらわれない新たな発想の転換、教職員の負担が一部に偏らない役割分担の工夫、教材準備時間の短縮により、教職員一人一人の学びや質、意欲を高める。 ②朝の職員会をボード掲示に変更することで、教員の教材研究の時間を確保し、自身の資質向上や教員間の学び合いを図る。また午後の職員会の参加人員、回数の精選を行い、ボード、紙、データ上での共有、周知にすることで、時間短縮を図るとともに、各教職員のより明確な伝達能力の向上を図る。 ③職員会議の開始終了時間、退勤時間の目安を決めて業務にあたることで、教職員の計画的な業務の遂行と、自身の考えを整理し発信する能力の向上を図る。 ④保育後に教員間で伝達し、共有していた子どもの育ちや課題などの姿を、保育時間中のリアルタイムに伝達し合う機会も意識してつくることで、迅速な子ども理解と機を逃さないよりよい援助につなげる。	①これまでの慣例にとらわれず、行事の運用について見直し、教職員の負担を減らすことと、子どもたちへのねらいが達成できること、子どもたちが楽しめることが両立できるように工夫した。行事の出し物での制作物を減らしてあるものを活用して寸劇をする、子どもたちを巻き込んでみんなで遊ぶ…など、子どもたちも楽しめ、これまでより準備の負担を軽くすることができた。 ②職員朝礼を原則行わないことで、朝の環境整備や保育準備などに充てられることから、教職員にゆとりができ、声を掛け合いながらよりよい園環境を目指すことができていると感じる。教職員がボードを頼りに状況を把握することから、わかりにくい際にやや戸惑いなどが生じることもあり、より綿密な記載、わかりやすい表示などの工夫がさらに望まれる。 ③行事などの職員会議は、どうしても全員で顔を合わせたいものに限り、短時間勤務者の勤務時間内に終了できるよう時間設定を行い、定刻に終了できるよう努力したが、検討内容が多いものについては時間超過することがしばしばあった。出席すべき会議・研修を減らしたことで、負担はやや少なくなったと思われる。 ④子どもたちの育ちのために担当教員間で情報交換を行うことがとても大切であると実感したが、勤務時間的に園児の降園とともに勤務を終える者もいて、情報交換をすると超過勤務になることもしばしばあった。

自己評価

分析（成果と課題）
・会議設定を勤務時間内にする、会議終了時間を明確にする、勤務時間外の研修参加について無理をしない、要点だけ押さえた会議の進め方を心掛けるといったことを実践した。ただし、大きな行事など、検討内容が多い際には予定時刻を超過しがちであった。 ・各々の勤務時間があるが、子どもの姿の共有、子どもへのかかわりについての話合いなどをすると、勤務時間内では収まらないことがどうしても発生していた。必要な話合いについて時間を確保する方法が必要であると考える。 ・昨年に続き、職員朝礼を原則行わないことは聞き取りからも教職員のゆとりにつながっている。その分不可欠となってくるボードでの共有がどのくらい教職員にとって十分なのか不足なのかを日々の生活で引き続き注意して捉え、より各教職員が安心して職務に迎えるようにしていきたい。
分析をふまえた取組の改善（改善の必要な取組について記載）
・引き続き会議のもち方についてはこれまで以上の効率化を図れるよう、読んでわかりやすい資料つくり、検討事項の整理などに意識して取り組む。 ・子どものことについての話合い、情報交換について、保育時間内のやり取りでは限界もあると感じる。どうしても必要な話合いに要する時間を、週の勤務内で弾力的に運用するなどの工夫をしていきたい。 ・以前より人数も増え、様々な勤務時間、立場の教職員がいる中で、効率的に情報を伝える方法をボード以外のことも含めアイデアを出し、試行していく。
（最終評価に向けた）改善した取組を検証する各種指標
・非常勤講師・総合育成支援員といった勤務時間の短い教員が、超過勤務になっていないか ・園内での情報がわかりやすいかの聞き取り ・勤務時間を守りながら子どもの情報交換ができるような取り組みが有効であったかの聞き取り ・教職員との面談の結果やストレスチェックの結果の分析
学校（幼稚園）関係者による意見・支援策
・少人数で運営する幼稚園は、とても多忙であると予測できる。よりよい保育をめざしながら、教職員の健康も守れるように工夫してほしい。